

第3節 甲府城下町遺跡出土の焼塩壺について

海水から作られた粗塩を臼で細かく砕き、蓋をした素焼きの壺に詰めて、壺ごと焼くことによって白い良質な精製塩（壺焼塩）が得られる。この壺焼塩の製造と流通に使用された容器が焼塩壺である。元来は武家の宴席で用いたり、贈答品とされた「高級品」であったようである。これまでの甲府城下町遺跡の調査では、日向町遺跡第2地点、北口二丁目桜シルク跡地点、集会場地点、北口二丁目舞鶴城公園西通り線地点などで焼塩壺が出土している。いずれも武家屋敷地である二ノ堀の内郭に位置する。出土数はあまり多くなく日向町遺跡第2地点の9点、桜シルク跡地点の5点が目立つ程度である。今回の調査地点では、26点（身15点・蓋11点）と比較的多くの焼塩壺が出土した（図1）。ここではその資料を紹介しつつ、若干の推察を行ってみたい。

1号池からは蓋4点・身6点の焼塩壺が出土した。身と蓋がセットとなって出土した例はなかった。1号池は中島を持つ大きな池で、調査区南西部の大部分を占める。池は、柳沢氏の家老平岡将監の屋敷に関わる遺構と考えられる。

上段の4点は蓋である。裏面に布目があり、断面形は逆凹字形である。他の6点は身である。蓋受けを持ち、コップ形を呈す。内面には布目が見られ、板状の粘土を芯に巻きつけて成形したのと考えられる。113は「泉州麻」、117は「泉州麻生」、133には「泉州・」の刻印がある。113は「麻生」の「生」の一面目まで描きかけて止めているように見える。刻印が体部の下位にあるため、スペースがなくなってしまったのだろうか。145は平行する線刻が見られるが文字は確認できない。底部は粘土塊を充填して製作した痕跡が明瞭に残る。1号池出土の焼塩壺は、その形状や刻印、成形技法から18世紀前半までの時期に製作されたのと考えられる。

1号池以外の場所で出土した焼塩壺は、蓋7点・身9点である。セットでの出土例はない。いずれも調査区の東半から出土した。蓋では断面形が逆凹字形のもの他に、1号溝54や28号土坑7など凹みがほとんどなくなって平らになっているものがある。身では、攪乱G10グリッド出土のものは、板作り成形されているが、蓋受けが退化しており、器形も体部の立ち上がりがゆるやかになっている。37号土坑とE12グリッド出土の5点は、1号池出土のものに比べて明らかに寸詰まりで薄手になっている。底部には回転糸切り痕が残る、ロクロ成形され

たものである。これらの蓋と身の製作時期は18世紀後半から19世紀にかけてのものと考えられ、調査地点に甲府勤番の大手役宅が存在していた時期である。

最後に、大手役宅の様子が描かれた『甲府郭内追手御役宅絵図』に遺構図を重ね、焼塩壺の出土分布から推察される点を挙げてみたい（図2）。なお、図面の重ね方は絵図上の東側と南側の屋敷境が現道に一致すると仮定した。絵図の位置、縮尺等に検討の余地はあるが、分布のおおよその傾向はつかめるものとする。

焼塩壺の出土地点は、1号池で出土したもの、大手役宅北東角の台所あたりと推測される位置から北へ広がるものと、役宅東側の長屋門あたりと推測される位置のものの三つに分かれる。

1号池出土のものは、大手役宅の成立時期には池が埋没していたと考えられることや「高級品」である焼塩壺が10点も出土したことを考え合わせると、

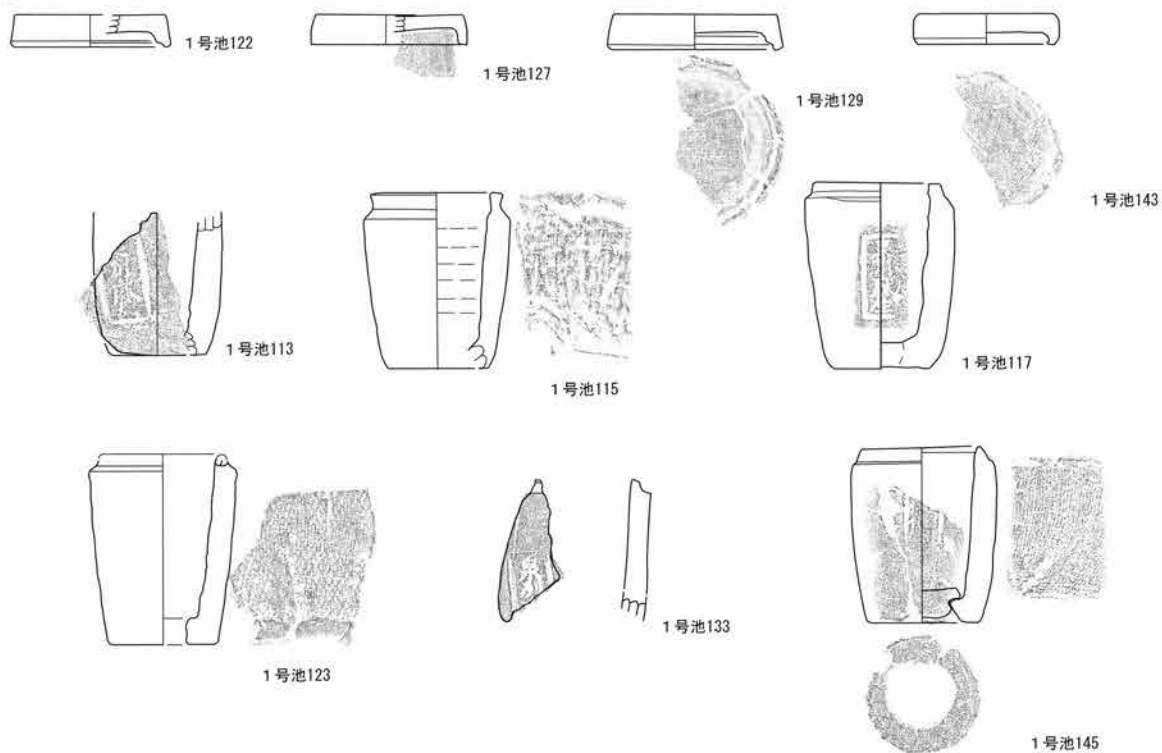
大手役宅成立以前の柳沢氏領国期（1704～1729年）の家老平岡将監の屋敷で使われ、使用後に池に投棄されたものである可能性が高い。

大手役宅北側出土のものは、台所や井戸など役宅の炊事場がある所から北側に広がる空間に、役宅で使った焼塩壺やその他の不要となった陶磁器などを捨てるゴミ穴等の存在を考えることができる。ただし26号土坑は、1号池と同様な時期の焼塩壺ばかりが出土していることから、平岡将監屋敷の時期のものとも考えられる。屋敷の絵図なども見つかっておらず、その様子は不明であるが、平岡将監屋敷の炊事場の立地も大手役宅期とあまり変わらなかったのかもしれない。

大手役宅東側出土のものについては、役宅の東側には長屋が連なっており、甲府勤番支配に仕えて長屋に暮らす人々の炊事にも壺焼塩が使われることがあったのではないかと想像している。この付近で出土した焼塩壺は3点であるが、その内、2点は大手役宅期のものと考えられる。「高級品」とされる壺焼塩であるが、少なくとも大手役宅の時期（1730～1867年）には、そこに暮らす人々も壺焼塩を味わっていたのかもしれない。

参考文献：『図説 江戸考古学事典』

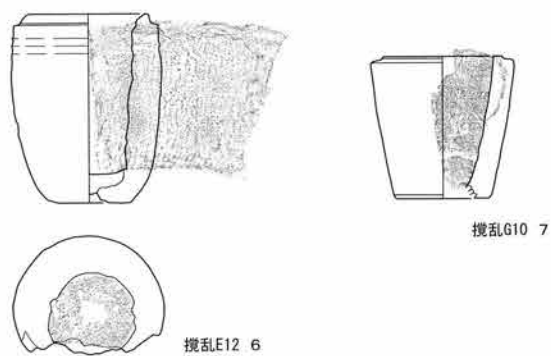
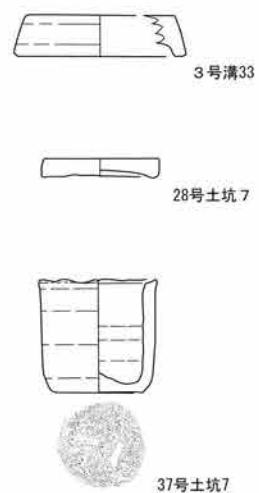
1号池



大手役宅北側



大手役宅東側



0 1 : 4 20cm

図1 甲府城下町遺跡市役所地点出土の焼塩壺 (S=1/4)

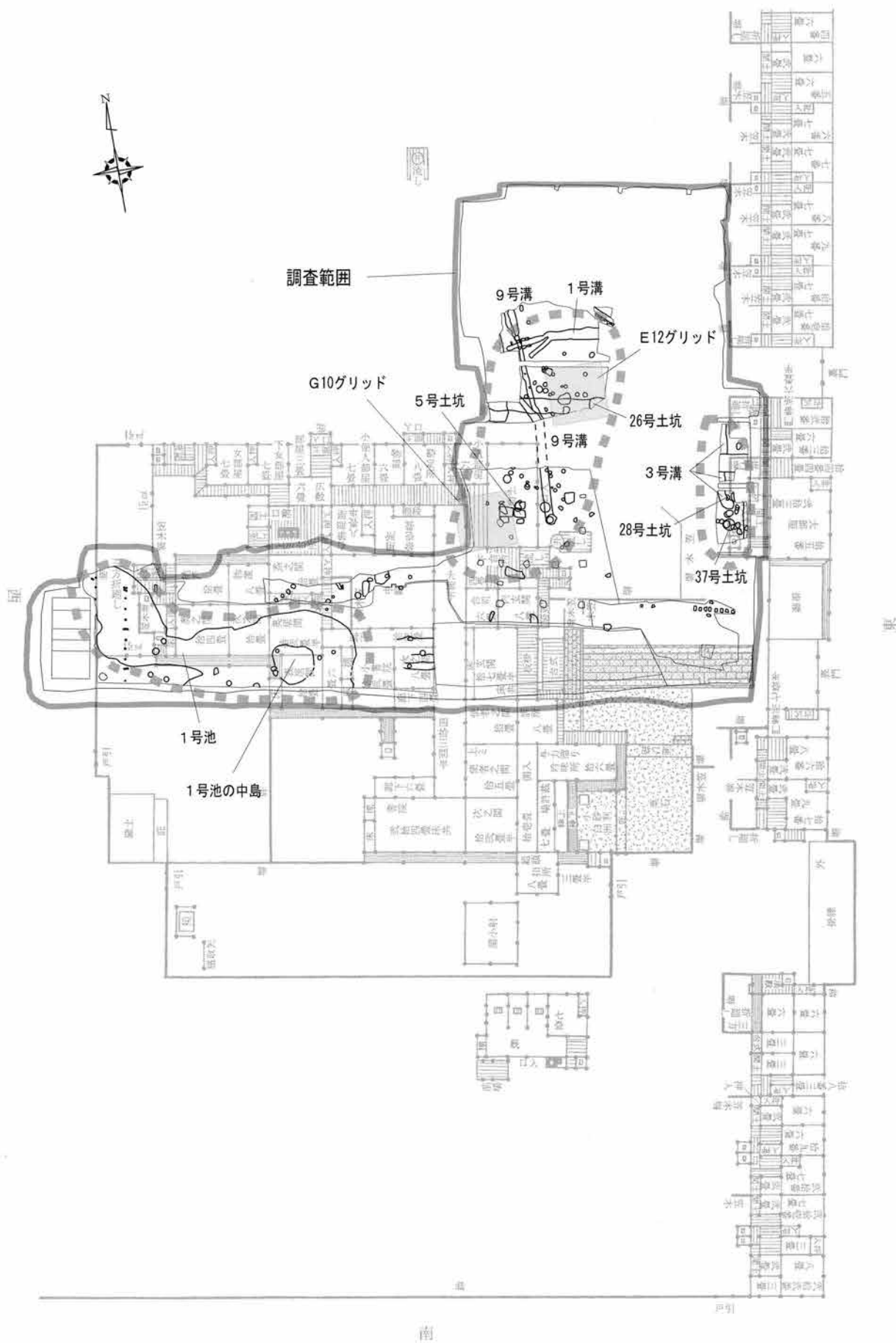


図2 『甲府郭内追手御役宅絵図』(東北大学収蔵)と焼塩壺出土地点 (S=1/500)